

Title	ベンチャー・ビジネス - 発展段階と成長要因に関する一考察 -
Sub Title	
Author	渡邊公子(Watanabe, Kimiko) 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1994
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1994年度経営学 第1137号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1137

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	渡邊 公子	主査	古川 公成
所属	古川 公成 研究室	副査	小野桂之介 山根 節

ベンチャー・ビジネス

— 発展段階と成長要因に関する一考案 —

この研究の目的は、第一に「ベンチャー・ビジネス」の成長段階を定義し、第二に各成長段階の特徴と経営課題を示し、第三に「ベンチャー・ビジネス」の成長要因を探ることにある。そしてこれらをベンチャー企業の経営者に対するインタビューを通じて確かめることにある。

「ベンチャー・ビジネス」の成長を創業から株式公開までと捉えるとそのプロセスは4つの段階に分かれる。ここでは各成長ステージを①スタートアップ期、②リスク成長期、③安定成長期（前期）、④安定成長期（後期）と名付けた。

「ベンチャー・ビジネス」の課題は、資金調達面、人材確保面、経営管理面、事業戦略面の4つに大別され、その重要度は各ステージごとに異なっている。資金調達に関してはリスク成長期までは、事業拡大に必要な資金ニーズが発生するが、それ以降は資本政策に伴う資金ニーズへと変化する。人材確保については、成長につれ次第に各部門のヘッドや社長の片腕となる人物の獲得に比重が置かれる。また、安定成長期に入ると社長の「ワンマン経営」から「組織的経営」への移行がみられる。事業戦略については、成長に伴い単一事業領域から複数事業領域を開拓していく傾向がある。

「ベンチャー・ビジネス」が成長を持続し成功するためには各成長段階の特徴と課題を踏まえて、成長段階に応じた経営を行うことが重要となってくる。